

## 青森県立保健大学カリキュラム・ポリシー

### I. 本学のカリキュラム構成

本学のカリキュラムは、「人間総合科学科目」、「専門科目」、「健康科学部共通科目」で構成し、これらをもってディプロマ・ポリシーに掲げた4つの力（自らを高める力、専門的知識に根差した実践力、創造力、統合的実践力）を育成します。

- 「人間総合科学科目」には、5つの科目群を置き、自らを高める力を育成し、専門科目で学ぶ基盤を作ります。
- 「専門科目」は、習得の順序性を重視し、「専門支持科目群」、「基幹科目群」、「展開科目群」から構成します。「専門支持科目群」と「基幹科目群」では主に専門的知識に根差した実践力を、「展開科目群」では主に創造力を育成します。
- 「健康科学部共通科目」は、これからの保健、医療及び福祉を担う人材に共通して必要な能力を育成する科目であり、創造力及び統合的実践力を育成します。

また、多様な入学者が円滑に本学で学べるように、「補強学習科目群」を置き、高校までの習得状況に応じて、入学者が自ら選択して学び、学習の基盤づくりができるようにします（修得単位には含めません）。

### II. 4つの力を育成するカリキュラム・ポリシー

1. 自らを高める力 —豊かな教養をもとに、適切な表現力をもって自ら学ぶことのできる力—			
健康科学部（全学科共通）			
<p><b>○教養を身につけるための教育</b> ヒューマンケアを実践できる人材として必要な教養を身に付けるために「人間総合科学科目」に、「人間と存在」、「科学と論理」、「人間と芸術」、「現代社会と生活」科目群を置き、自ら選択して学ぶことで、人間やその生活への理解を深める基盤を作ります。</p> <p><b>○主体的学習力を身につけるための教育</b> 生涯にわたって活用できる自己学習力を育成するために、人間総合科学科目で、基礎的なラーニングスキルを習得させます。これを活用して「専門科目」を学ぶことで、自ら学習をし続けることのできる力と態度を育みます。</p> <p><b>○表現力を身につけるための教育</b> 「言語とコミュニケーション」科目群においては、コミュニケーションの基礎を学び、ネイティブスピーカーによる英語の少人数授業や、文化と語学を合わせて学ぶことができる科目などから、グローバルな視野を育み、心の障壁を取り除き、心を開いて多様な人々と接することができる力を養います。</p>			
2. 専門的知識に根差した実践力 —高度な専門的知識と技術、倫理的態度を獲得し、これを踏まえて実践できる力—			
看護学科	理学療法学科	社会福祉学科	栄養学科
<p><b>○学習の順序性</b> 1年次から看護学への関心を高めるため、専門支持科目群、基幹科目群、展開科目群と、段階的に科目を配置し、系統的に看護学を教授します。</p> <p><b>○アクティブラーニングを主体とした教育方法</b> 効果的な知識・技術の習得のために、アクティブラーニング（シミュレーション、少人数のグループディスカッション、高忠実度シミュレータ、模擬患者、臨地実習等）を主体とした教育方法を用います。</p> <p><b>○専門的知識・実践力を身につけるための教育</b> 「専門支持科目群」では、看護の基盤となる人体の構造・機能、疾病及びその治療方法、「基幹科目群」では様々な対象に合わせた援助の知識と方法、「展開科目群」では、専門的・応用的な援助方法を教授します。 実践力を身につけるために、基礎的な援助方法を身につけた後、様々な健康レベル、成長・発達、地域や在宅等の看護の場に即した看護の実践について、それぞれに援助論と実習を配して教授します。更に、広い視野から看護を展望するための科目を配しています。</p>	<p><b>○学習の順序性</b> 理学療法の多様なニーズに応えるために、新たな展開として、基礎および臨床理学療法の専門分化する知識と技術を習得するための順序性のある系統的な講義・実習・演習を教授します。</p> <p><b>○アクティブラーニングを主体とした教育方法</b> 理学療法の知識と技術を身につけさせるために、アクティブラーニング（少人数での演習、模擬患者、シミュレーション教育、臨床実習等）を主体とした教育方法をとります。</p> <p><b>○専門的知識・実践力を身につけるための教育</b> 実践力を身につけるため、障害の種類やレベル、成長・発達・加齢、地域等の実践の場に即した理学療法の実践を可能とするための講義及び実習科目を配置します。 対象者へのラポールとオリエンテーション（人間関係形成能力）及び、情報収集、観察、検査・測定、記録、統合と解釈（情報活用能力）並びに、問題点抽出・目標設定（将来設計能力）、治療計画立案（意思決定能力）及び、対象者の状態に応じた治療方針の修正（課題対応能力）をやる力を育成します。さらに、教育成果としての臨床実習教育の目標到達度を、人材養成教育の総合的な評価尺度として効果判定します。</p>	<p><b>○学習の順序性</b> 専門支持科目群、基幹科目群、展開科目群と、段階的に科目を配置し、系統的に社会福祉学を教授します。</p> <p><b>○アクティブラーニングを主体とした教育方法</b> 社会福祉の知識と技術を身につけさせるために、アクティブラーニング（少人数での演習、グループディスカッション、臨地実習等）を主体とした教育方法とします。</p> <p><b>○専門的知識・実践力を身につけるための教育</b> 「専門支持科目」では、社会福祉学の基盤となる知識・技術およびこれらの関連科目について教授します。「基幹科目」では、多様なソーシャルワーク領域における知識・技術・価値を教授します。「展開科目」では、より専門的な知識やより高度で応用的なソーシャルワーク実践を教授します。 個人や家族（ミクロ）、地域（メゾ）、社会全体（マクロ）の視点（レベル）から社会福祉の対象へのアプローチを教授します。</p>	<p><b>○学習の順序性</b> 管理栄養士として必要な知識・技術を、系統的・段階的に高いレベルで教授します。</p> <p><b>○アクティブラーニングを主体とした教育方法</b> 効果的な知識・技術の習得のために、アクティブラーニング（実験、少人数での演習、グループディスカッション、模擬事例、シミュレーション教育、臨地実習等）を主体とした教育方法とします。</p> <p><b>○専門的知識・実践力を身につけるための教育</b> 管理栄養士として基礎となる知識は、専門基礎分野（専門支持科目群）の講義で養い、これらを実験・実習によって定着させます。 管理栄養士の高度で専門的な知識と技術は、専門分野（基幹科目群）の講義で養い、これらを実験・実習・臨地実習によって柔軟に応用へと展開できる力を身につけさせます。</p>

<p><b>○倫理観を身につけるための教育</b> 看護に必要な対象の人権を守る視点、実践者としての倫理観を育むために、講義と演習で学習させ、臨地実習での学びと振り返りを通して倫理観を体験的に学習させます。</p> <p><b>○キャリア形成支援教育</b> 看護職としてのキャリアのあり方も視野にいれ、包括的な視点で看護を捉えることができる基礎的能力を育成します。</p>	<p><b>○倫理観を身につけるための教育</b> 知識・技術のみならず、コミュニケーション能力および人間関係形成能力に基づいた倫理観の育成を重視し、効果的な臨床実習とするために実習施設と大学との関係を強化し、連携して教授します。</p> <p><b>○キャリア形成支援教育</b> 学内学習での基礎的能力と学外学習での汎用的能力の両面から、計画実行能力と課題対応能力を身につけた人材育成を目途とするキャリア教育を行います。</p>	<p><b>○倫理観を身につけるための教育</b> 「専門支持科目」、「基幹科目」および「展開科目」において、権利擁護の概念を段階的に理解させ、より高度な倫理的判断能力を培います。</p> <p><b>○キャリア形成支援教育</b> 社会福祉を学んだ者が活躍する現場は多岐に渡るため、臨地実習やキャリア支援教育から、自身のキャリア形成のビジョン作りを支援します。</p>	<p><b>○倫理観を身につけるための教育</b> 対象者を尊重する態度や管理栄養士の職業倫理への理解を深めるために、専門分野の関連科目においてその内容を習得させます。</p> <p><b>○キャリア形成支援教育</b> 管理栄養士の活躍する現場は多岐に渡るため、様々な職域における実践現場で臨地実習を行うことで、自身のキャリア形成のビジョン作りを支援します。</p>
---	--	---	--

### 3. 創造力

—獲得した知識や技術を発展的に活用できる能力—

看護学科	理学療法学科	社会福祉学科	栄養学科
<p><b>○問題解決能力を高める教育</b> 情報収集力・情報分析力・問題解決能力を高めることを目指した科目を設定し、対象の健康課題の解決に取り組むための看護過程の展開について、講義・演習・実習を通して段階的に繰り返し学習させます。</p> <p><b>○クリティカルシンキングを高めるための教育</b> 講義、実習や演習のカンファレンス、成果の発表やその評価を通し、4年間を通じて論理的批判的能力を育成します。特に研究については、看護研究方法論の講義及び卒業研究で、現象に対する批判的思考を磨き、看護に関連した課題を見つけられるよう、少人数ゼミ形式で学習させます。</p> <p><b>○健康科学リテラシーを身につけるための教育</b> 健康科学リテラシーを身につけるために、健康科学部共通科目にヘルスリテラシー科目群を置き、段階的な教育を行います。専門科目では、講義・演習を通して、看護に必要な科学の法則を学び、得られた情報を正確に分析し看護援助に活用できる能力を育みます。</p>	<p><b>○問題解決能力を高める教育</b> 習得した基本的知識・技術を、臨床の場で対象者の状況に適合させる応用的展開能力を養います。</p> <p><b>○クリティカルシンキングを高めるための教育</b> 臨床経験と科学的根拠に基づいた理学療法法の確立を担う人材養成のために、研究計画の立案と遂行、論文執筆、プレゼンテーションの一連の研究過程について、展開科目を契機として教授し、論理的批判的思考力及び科学リテラシーを育成します。</p> <p><b>○健康科学リテラシーを身につけるための教育</b> 健康科学リテラシーを身につけるために、健康科学部共通科目にヘルスリテラシー科目群を置き、段階的な教育を行います。専門科目では、講義・演習を通して、理学療法に関わるヘルスリテラシー向上に活用できる能力を育みます。</p>	<p><b>○問題解決能力を高める教育</b> 系統的に習得した専門的な知識と技術を統合させ、社会福祉に関わる理論や実践に応用させます。</p> <p><b>○クリティカルシンキングを高めるための教育</b> 社会福祉領域において新たな課題を見出し、高度な倫理的判断のもとで、課題の解決を図るための論理的思考と研究能力を習得させます。</p> <p><b>○健康科学リテラシーを身につけるための教育</b> 健康科学リテラシーを身につけるために、健康科学部共通科目にヘルスリテラシー科目群を置き、段階的な教育を行います。人々の生活・健康課題を改善する一つのアプローチとして、住民および地域全体のヘルスリテラシー向上に資する能力を育みます。</p>	<p><b>○問題解決能力を高める教育</b> 系統的・段階的に習得した専門知識・技術をさらに発展させるために、問題解決力・思考力を育てます。そのために総合演習・卒業研究を位置づけます。これらの科目から卒業後、栄養と健康の高度専門職業人として、科学的根拠を踏まえ、社会ニーズに適切かつ柔軟に対応できる能力や姿勢を身に付けさせます。</p> <p><b>○クリティカルシンキングを高めるための教育</b> 講義、実験、実習、演習での発表やその評価を通し、4年間を通じて論理的批判的思考力及び科学リテラシーを育成します。</p> <p><b>○健康科学リテラシーを身につけるための教育</b> 健康科学リテラシーを身につけるために、健康科学部共通科目にヘルスリテラシー科目群を置き、段階的な教育を行います。専門科目では、講義・演習・実習を通して、栄養に関わるヘルスリテラシー向上に活用できる能力を育みます。</p>

### 4. 統合的実践力

—繋がりあうことでより大きな力を発揮できる実践力—

#### 健康科学部（全学科共通）

##### ○地域課題（ヘルスリテラシー向上）を核とした実践力の育成

「健康科学部共通科目」の「ヘルスリテラシー科目群」において、自らの健康科学リテラシーを応用し、住民のヘルスリテラシーを向上させるための方策について探求します。1年生から4年生まで専門科目の習得レベルに応じた科目を配し、1年次、4年次には地域に赴き、地域とそこに暮らす人々の現実の健康上の課題から援助方法を探求します。

##### ○多職種と協働できる実践力を育成するための教育

ヘルスリテラシー科目群では、学科混成グループで学びあう場を提供します。各々の専門分野を知り、関心や視野を広げるとともに、対象を中心として他職種が協働してケアを実現することができる実践能力を育成します。学びの過程を通し、表現力、リーダーシップ、メンバーシップを育成します。

また、ヒューマンケアやキャリア、ボランティアに関わる最新動向を学習するヒューマンケア特殊講義、他学科に開講できる専門科目を抽出した「共通選択科目群」を置くことで、学生自身の興味に従って選択して学ぶ環境を提供し、視野を広げ、他分野への理解を促します。

「2. 専門的知識に根差した実践力」及び「3. 創造力」については、学科による特殊性が大きいので、区別して表しています。

本学のカリキュラムは、「人間総合科学科目」、「専門科目」、「健康科学部共通科目」で構成し、これらをもってディプロマ・ポリシーに掲げた4つの力（自らを高める力、専門的知識に根差した実践力、創造力、統合的実践力）を育成します。

○「人間総合科学科目」には、5つの科目群を置き、自らを高める力を育成し、専門科目で学ぶ基盤を作ります。

○「専門科目」は、習得の順序性を重視し、「専門支持科目群」、「基幹科目群」、「展開科目群」から構成します。「専門支持科目群」と「基幹科目群」では主に専門的知識に根差した実践力を、「展開科目群」では主に創造力を育成します。

○「健康科学部共通科目」は、これからの保健、医療及び福祉を担う人材に共通して必要な能力を育成する科目であり、創造力及び統合的実践力を育成します。

また、多様な入学者が円滑に本学で学べるように、「補強学習科目群」を置き、高校までの習得状況に応じて、入学者が自ら選択して学び、学習の基盤づくりができるようにします（修得単位には含めません）。

### 1. 自らを高める力 —豊かな教養をもとに、適切な表現力をもって自ら学ぶことのできる力—

#### ○教養を身につけるための教育

ヒューマンケアを実践できる人材として必要な教養を身に付けるために「人間総合科学科目」に、「人間と存在」、「科学と論理」、「人間と芸術」、「現代社会と生活」科目群を置き、自ら選択して学ぶことで、人間やその生活への理解を深める基盤を作ります。

#### ○主体的学習力を身につけるための教育

生涯にわたって活用できる自己学習力を育成するために、人間総合科学科目で、基礎的なラーニングスキルを習得させます。これを活用して「専門科目」を学ぶことで、自ら学習をし続けることのできる力と態度を育みます。

#### ○表現力を身につけるための教育

「言語とコミュニケーション」科目群においては、コミュニケーションの基礎を学び、ネイティブスピーカーによる英語の少人数授業や、文化と語学を合わせて学ぶことができる科目などから、グローバルな視野を育み、心の障壁を取り除き、心を開いて多様な人々と接することができる力を養います。

### 2. 専門的知識に根差した実践力 —高度な専門的知識と技術、倫理的態度を獲得し、これを踏まえて実践できる力—

#### ○学習の順序性

1年次から看護学への関心を高めるため、専門支持科目群、基幹科目群、展開科目群と、段階的に科目を配置し、系統的に看護学を教授します。

#### ○アクティブラーニングを主体とした教育方法

効果的な知識・技術の習得のために、アクティブラーニング（シミュレーション、少人数のグループディスカッション、高忠実度シミュレータ、模擬患者、臨地実習等）を主体とした教育方法を用います。

#### ○専門的知識・実践力を身につけるための教育

「専門支持科目群」では、看護の基盤となる人体の構造・機能、疾病及びその治療方法、「基幹科目群」では様々な対象に合わせた援助の知識と方法、「展開科目群」では、専門的・応用的な援助方法を教授します。

実践力を身につけるために、基礎的な援助方法を身につけさせた後、様々な健康レベル、成長・発達、地域や在宅等の看護の場に即した看護の実践について、それぞれに援助論と実習を配して教授します。更に、広い視野から看護を展望するための科目を配しています。

#### ○倫理観を身につけるための教育

看護に必要な対象の人権を守る視点、実践者としての倫理観を育むために、講義と演習で学習させ、臨地実習での学びと振り返りを通して倫理観を体験的に学習させます。

#### ○キャリア形成支援教育

看護職としてのキャリアのあり方も視野にいれ、包括的な視点で看護を捉えることができる基礎的能力を育成します。

### 3. 創造力 —獲得した知識や技術を発展的に活用できる能力—

#### ○問題解決能力を高める教育

情報収集力・情報分析力・問題解決力を高めることを目指した科目を設定し、対象の健康課題の解決に取り組むための看護過程の展開について、講義・演習・実習を通して段階的に繰り返し学習させます。

#### ○クリティカルシンキングを高めるための教育

講義、実習や演習のカンファレンス、成果の発表やその評価を通し、4年間を通じて論理的批判的能力を育成します。特に研究については、看護研究方法論の講義及び卒業研究で、現象に対する批判的思考を磨き、看護に関連した課題を見つけられるよう、少人数ゼミ形式で学習させます。

#### ○健康科学リテラシーを身につけるための教育

健康科学リテラシーを身につけるために、健康科学部共通科目にヘルスリテラシー科目群を置き、段階的な教育を行います。専門科目では、講義・演習を通して、看護に必要な科学の法則を学び、得られた情報を正確に分析し看護援助に活用できる能力を育みます。

### 4. 統合的実践力 —繋がりあうことでより大きな力を発揮できる実践力—

#### ○地域課題（ヘルスリテラシー向上）を核とした実践力の育成

「健康科学部共通科目」の「ヘルスリテラシー科目群」において、自らの健康科学リテラシーを応用し、住民のヘルスリテラシーを向上させるための方策について探求します。1年生から4年生まで専門科目の習得レベルに応じた科目を配し、1年次、4年次には地域に赴き、地域とそこに暮らす人々の現実の健康上の課題から援助方法を探求します。

#### ○多職種と協働できる実践力を育成するための教育

ヘルスリテラシー科目群では、学科混成グループで学びあう場を提供します。各々の専門分野を知り、関心や視野を広げるとともに、対象を中心として他職種が協働してケアを実現することができる実践能力を育成します。学びの過程を通し、表現力、リーダーシップ、メンバーシップを育成します。

また、ヒューマンケアやキャリア、ボランティアに関わる最新動向を学習するヒューマンケア特殊講義、他学科に開講できる専門科目を抽出した「共通選択科目群」を置くことで、学生自身の興味に従って選択して学ぶ環境を提供し、視野を広げ、他分野への理解を促します。

本学のカリキュラムは、「人間総合科学科目」、「専門科目」、「健康科学部共通科目」で構成し、これらをもってディプロマ・ポリシーに掲げた4つの力（自らを高める力、専門的知識に根差した実践力、創造力、統合的実践力）を育成します。

○「人間総合科学科目」には、5つの科目群を置き、自らを高める力を育成し、専門科目で学ぶ基盤を作ります。

○「専門科目」は、習得の順序性を重視し、「専門支持科目群」、「基幹科目群」、「展開科目群」から構成します。「専門支持科目群」と「基幹科目群」では主に専門的知識に根差した実践力を、「展開科目群」では主に創造力を育成します。

○「健康科学部共通科目」は、これからの保健、医療及び福祉を担う人材に共通して必要な能力を育成する科目であり、創造力及び統合的実践力を育成します。

また、多様な入学者が円滑に本学で学べるように、「補強学習科目群」を置き、高校までの習得状況に応じて、入学者が自ら選択して学び、学習の基盤づくりができるようにします（修得単位には含めません）。

### 1. 自らを高める力 —豊かな教養をもとに、適切な表現力をもって自ら学ぶことのできる力—

#### ○教養を身につけるための教育

ヒューマンケアを実践できる人材として必要な教養を身に付けるために「人間総合科学科目」に、「人間と存在」、「科学と論理」、「人間と芸術」、「現代社会と生活」科目群を置き、自ら選択して学ぶことで、人間やその生活への理解を深める基盤を作ります。

#### ○主体的学習力を身につけるための教育

生涯にわたって活用できる自己学習力を育成するために、人間総合科学科目で、基礎的なラーニングスキルを習得させます。これを活用して「専門科目」を学ぶことで、自ら学習をし続けることのできる力と態度を育みます。

#### ○表現力を身につけるための教育

「言語とコミュニケーション」科目群においては、コミュニケーションの基礎を学び、ネイティブスピーカーによる英語の少人数授業や、文化と語学を合わせて学ぶことができる科目などから、グローバルな視野を育み、心の障壁を取り除き、心を開いて多様な人々と接することができる力を養います。

### 2. 専門的知識に根差した実践力 —高度な専門的知識と技術、倫理的態度を獲得し、これを踏まえて実践できる力—

#### ○学習の順序性

理学療法の多様なニーズに応えるために、新たな展開として、基礎および臨床理学療法の専門分化する知識と技術を習得するための順序性のある系統的な講義・実習・演習を教授します。

#### ○アクティブラーニングを主体とした教育方法

理学療法の知識と技術を身につけさせるために、アクティブラーニング（少人数での演習、模擬患者、シミュレーション教育、臨床実習等）を主体とした教育方法をとります。

#### ○専門的知識・実践力を身につけるための教育

実践力を身につけるため、障害の種類やレベル、成長・発達・加齢、地域等の実践の場に即した理学療法の実践を可能とするための講義及び実習科目を配置します。

対象者へのラポールとオリエンテーション（人間関係形成能力）及び、情報収集、観察、検査・測定、記録、統合と解釈（情報活用能力）並びに、問題点抽出・目標設定（将来設計能力）、治療計画立案（意思決定能力）及び、対象者の状態に応じた治療方針の修正（課題対応能力）をする力を育成します。さらに、教育成果としての臨床実習教育の目標到達度を、人材養成教育の総合的な評価尺度として効果判定します。

#### ○倫理観を身につけるための教育

知識・技術のみならず、コミュニケーション能力および人間関係形成能力に基づいた倫理観の育成を重視し、効果的な臨床実習とするために実習施設と大学との関係を強化し、連携して教授します。

#### ○キャリア形成支援教育

学内学習での基礎的能力と学外学習での汎用的能力の両面から、計画実行能力と課題対応能力を身につけた人材育成を目的とするキャリア教育を行います。

### 3. 創造力 —獲得した知識や技術を発展的に活用できる能力—

#### ○問題解決能力を高める教育

習得した基本的知識・技術を、臨床の場で対象者の状況に適合させる応用的展開能力を養います。

#### ○クリティカルシンキングを高めるための教育

臨床経験と科学的根拠に基づいた理学療法の確立を担う人材養成のために、研究計画の立案と遂行、論文執筆、プレゼンテーションの一連の研究過程について、展開科目を契機として教授し、論理的批判的思考力及び科学リテラシーを育成します。

#### ○健康科学リテラシーを身につけるための教育

健康科学リテラシーを身につけるために、健康科学部共通科目にヘルスリテラシー科目群を置き、段階的な教育を行います。専門科目では、講義・演習を通して、理学療法に関わるヘルスリテラシーを教授し、住民のヘルスリテラシー向上に活用できる能力を育みます。

### 4. 統合的実践力 —繋がりあうことでより大きな力を発揮できる実践力—

#### ○地域課題（ヘルスリテラシー向上）を核とした実践力の育成

「健康科学部共通科目」の「ヘルスリテラシー科目群」において、自らの健康科学リテラシーを応用し、住民のヘルスリテラシーを向上させるための方策について探求します。1年生から4年生まで専門科目の習得レベルに応じた科目を配し、1年次、4年次には地域に赴き、地域とそこに暮らす人々の現実の健康上の課題から援助方法を探求します。

#### ○多職種と協働できる実践力を育成するための教育

ヘルスリテラシー科目群では、学科混成グループで学びあう場を提供します。各々の専門分野を知り、関心や視野を広げるとともに、対象を中心として他職種が協働してケアを実現することができる実践能力を育成します。学びの過程を通し、表現力、リーダーシップ、メンバーシップを育成します。

また、ヒューマンケアやキャリア、ボランティアに関わる最新動向を学習するヒューマンケア特殊講義、他学科に開講できる専門科目を抽出した「共通選択科目群」を置くことで、学生自身の興味に従って選択して学ぶ環境を提供し、視野を広げ、他分野への理解を促します。

本学のカリキュラムは、「人間総合科学科目」、「専門科目」、「健康科学部共通科目」で構成し、これらをもってディプロマ・ポリシーに掲げた4つの力（自らを高める力、専門的知識に根差した実践力、創造力、統合的実践力）を育成します。

○「人間総合科学科目」には、5つの科目群を置き、自らを高める力を育成し、専門科目で学ぶ基盤を作ります。

○「専門科目」は、習得の順序性を重視し、「専門支持科目群」、「基幹科目群」、「展開科目群」から構成します。「専門支持科目群」と「基幹科目群」では主に専門的知識に根差した実践力を、「展開科目群」では主に創造力を育成します。

○「健康科学部共通科目」は、これからの保健、医療及び福祉を担う人材に共通して必要な能力を育成する科目であり、創造力及び統合的実践力を育成します。

また、多様な入学者が円滑に本学で学べるように、「補強学習科目群」を置き、高校までの習得状況に応じて、入学者が自ら選択して学び、学習の基盤づくりができるようにします（修得単位には含めません）。

### 1. 自らを高める力 —豊かな教養をもとに、適切な表現力をもって自ら学ぶことのできる力—

#### ○教養を身につけるための教育

ヒューマンケアを実践できる人材として必要な教養を身に付けるために「人間総合科学科目」に、「人間と存在」、「科学と論理」、「人間と芸術」、「現代社会と生活」科目群を置き、自ら選択して学ぶことで、人間やその生活への理解を深める基盤を作ります。

#### ○主体的学習力を身につけるための教育

生涯にわたって活用できる自己学習力を育成するために、人間総合科学科目で、基礎的なラーニングスキルを習得させます。これを活用して「専門科目」を学ぶことで、自ら学習をし続けることのできる力と態度を育みます。

#### ○表現力を身につけるための教育

「言語とコミュニケーション」科目群においては、コミュニケーションの基礎を学び、ネイティブスピーカーによる英語の少人数授業や、文化と語学を合わせて学ぶことができる科目などから、グローバルな視野を育み、心の障壁を取り除き、心を開いて多様な人々と接することができる力を養います。

### 2. 専門的知識に根差した実践力 —高度な専門的知識と技術、倫理的態度を獲得し、これを踏まえて実践できる力—

#### ○学習の順序性

専門支持科目群、基幹科目群、展開科目群と、段階的に科目を配置し、系統的に社会福祉学を教授します。

#### ○アクティブラーニングを主体とした教育方法

社会福祉の知識と技術を身につけさせるために、アクティブラーニング（少人数での演習、グループディスカッション、臨地実習等）を主体とした教育方法とします。

#### ○専門的知識・実践力を身につけるための教育

「専門支持科目」では、社会福祉学の基盤となる知識・技術およびこれらの関連科目について教授します。「基幹科目」では、多様なソーシャルワーク領域における知識・技術・価値を教授します。「展開科目」では、より専門的な知識やより高度で応用的なソーシャルワーク実践を教授します。

個人や家族（ミクロ）、地域（メゾ）、社会全体（マクロ）の視点（レベル）から社会福祉の対象へのアプローチを教授します。

#### ○倫理観を身につけるための教育

「専門支持科目」、「基幹科目」および「展開科目」において、権利擁護の概念を段階的に理解させ、より高度な倫理的判断能力を培います。

#### ○キャリア形成支援教育

社会福祉を学んだ者が活躍する現場は多岐に渡るため、臨地実習やキャリア支援教育から、自身のキャリア形成のビジョン作りを支援します。

### 3. 創造力 —獲得した知識や技術を発展的に活用できる能力—

#### ○問題解決能力を高める教育

系統的に習得した専門的な知識と技術を統合させ、社会福祉に関わる理論や実践に応用させます。

#### ○クリティカルシンキングを高めるための教育

社会福祉領域において新たな課題を見出し、高度な倫理的判断のもとで、課題の解決を図るための論理的思考と研究能力を習得させます。

#### ○健康科学リテラシーを身につけるための教育

健康科学リテラシーを身につけるために、健康科学部共通科目にヘルスリテラシー科目群を置き、段階的な教育を行います。人々の生活・健康課題を改善する一つのアプローチとして、住民および地域全体のヘルスリテラシー向上に資する能力を育みます。

### 4. 統合的実践力 —繋がりあうことでより大きな力を発揮できる実践力—

#### ○地域課題（ヘルスリテラシー向上）を核とした実践力の育成

「健康科学部共通科目」の「ヘルスリテラシー科目群」において、自らの健康科学リテラシーを応用し、住民のヘルスリテラシーを向上させるための方策について探求します。1年生から4年生まで専門科目の習得レベルに応じた科目を配し、1年次、4年次には地域に赴き、地域とそこに暮らす人々の現実の健康上の課題から援助方法を探求します。

#### ○多職種と協働できる実践力を育成するための教育

ヘルスリテラシー科目群では、学科混成グループで学びあう場を提供します。各々の専門分野を知り、関心や視野を広げるとともに、対象を中心として他職種が協働してケアを実現することができる実践能力を育成します。学びの過程を通し、表現力、リーダーシップ、メンバーシップを育成します。

また、ヒューマンケアやキャリア、ボランティアに関わる最新動向を学習するヒューマンケア特殊講義、他学科に開講できる専門科目を抽出した「共通選択科目群」を置くことで、学生自身の興味に従って選択して学ぶ環境を提供し、視野を広げ、他分野への理解を促します。

本学のカリキュラムは、「人間総合科学科目」、「専門科目」、「健康科学部共通科目」で構成し、これらをもってディプロマ・ポリシーに掲げた4つの力（自らを高める力、専門的知識に根差した実践力、創造力、統合的実践力）を育成します。

○「人間総合科学科目」には、5つの科目群を置き、自らを高める力を育成し、専門科目で学ぶ基盤を作ります。

○「専門科目」は、習得の順序性を重視し、「専門支持科目群」、「基幹科目群」、「展開科目群」から構成します。「専門支持科目群」と「基幹科目群」では主に専門的知識に根差した実践力を、「展開科目群」では主に創造力を育成します。

○「健康科学部共通科目」は、これからの保健、医療及び福祉を担う人材に共通して必要な能力を育成する科目であり、創造力及び統合的実践力を育成します。

また、多様な入学者が円滑に本学で学べるように、「補強学習科目群」を置き、高校までの習得状況に応じて、入学者が自ら選択して学び、学習の基盤づくりができるようにします（修得単位には含めません）。

### 1. 自らを高める力 —豊かな教養をもとに、適切な表現力をもって自ら学ぶことのできる力—

#### ○教養を身につけるための教育

ヒューマンケアを実践できる人材として必要な教養を身に付けるために「人間総合科学科目」に、「人間と存在」、「科学と論理」、「人間と芸術」、「現代社会と生活」科目群を置き、自ら選択して学ぶことで、人間やその生活への理解を深める基盤を作ります。

#### ○主体的学習力を身につけるための教育

生涯にわたって活用できる自己学習力を育成するために、人間総合科学科目で、基礎的なラーニングスキルを習得させます。これを活用して「専門科目」を学ぶことで、自ら学習をし続けることのできる力と態度を育みます。

#### ○表現力を身につけるための教育

「言語とコミュニケーション」科目群においては、コミュニケーションの基礎を学び、ネイティブスピーカーによる英語の少人数授業や、文化と語学を合わせて学ぶことができる科目などから、グローバルな視野を育み、心の障壁を取り除き、心を開いて多様な人々と接することができる力を養います。

### 2. 専門的知識に根差した実践力 —高度な専門的知識と技術、倫理的態度を獲得し、これを踏まえて実践できる力—

#### ○学習の順序性

管理栄養士として必要な知識・技術を、系統的・段階的に高いレベルで教授します。

#### ○アクティブラーニングを主体とした教育方法

効果的な知識・技術の習得のために、アクティブラーニング（実験、少人数での演習、グループディスカッション、模擬事例、シミュレーション教育、臨地実習等）を主体とした教育方法とします。

#### ○専門的知識・実践力を身につけるための教育

管理栄養士として基礎となる知識は、専門基礎分野（専門支持科目群）の講義で養い、これらを実験・実習によって定着させます。

管理栄養士の高度で専門的な知識と技術は、専門分野（基幹科目群）の講義で養い、これらを実験・実習・臨地実習によって柔軟に応用へと展開できる力を身に付けさせます。

#### ○倫理観を身につけるための教育

対象者を尊重する態度や管理栄養士の職業倫理への理解を深めるために、専門分野の関連科目においてその内容を習得させます。

#### ○キャリア形成支援教育

管理栄養士の活躍する現場は多岐に渡るため、様々な職域における実践現場で臨地実習を行うことで、自身のキャリア形成のビジョン作りを支援します。

### 3. 創造力 —獲得した知識や技術を発展的に活用できる能力—

#### ○問題解決能力を高める教育

系統的・段階的に習得した専門知識・技術をさらに発展させるために、問題解決力・思考力を育てます。そのために総合演習・卒業研究を位置づけます。これらの科目から卒後、栄養と健康の高度専門職業人として、科学的根拠を踏まえ、社会ニーズに適切かつ柔軟に対応できる能力や姿勢を身に付けさせます。

#### ○クリティカルシンキングを高めるための教育

講義、実験、実習、演習での発表やその評価を通し、4年間を通じて論理的批判的思考力及び科学リテラシーを育成します。

#### ○健康科学リテラシーを身につけるための教育

健康科学リテラシーを身につけるために、健康科学部共通科目にヘルスリテラシー科目群を置き、段階的な教育を行います。専門科目では、講義・演習・実習を通して、栄養に関わるヘルスリテラシーを教授し、住民のヘルスリテラシー向上に活用できる能力を育みます。

### 4. 統合的実践力 —繋がりあうことでより大きな力を発揮できる実践力—

#### ○地域課題（ヘルスリテラシー向上）を核とした実践力の育成

「健康科学部共通科目」の「ヘルスリテラシー科目群」において、自らの健康科学リテラシーを応用し、住民のヘルスリテラシーを向上させるための方策について探求します。1年生から4年生まで専門科目の習得レベルに応じた科目を配し、1年次、4年次には地域に赴き、地域とそこに暮らす人々の現実の健康上の課題から援助方法を探求します。

#### ○多職種と協働できる実践力を育成するための教育

ヘルスリテラシー科目群では、学科混成グループで学びあう場を提供します。各々の専門分野を知り、関心や視野を広げるとともに、対象を中心として他職種が協働してケアを実現することができる実践能力を育成します。学びの過程を通し、表現力、リーダーシップ、メンバーシップを育成します。

また、ヒューマンケアやキャリア、ボランティアに関わる最新動向を学習するヒューマンケア特殊講義、他学科に開講できる専門科目を抽出した「共通選択科目群」を置くことで、学生自身の興味に従って選択して学ぶ環境を提供し、視野を広げ、他分野への理解を促します。